

(財)八尾市文化財調査研究会報告91

I 萱振遺跡（第25次調査）

II 東郷遺跡（第66次調査）

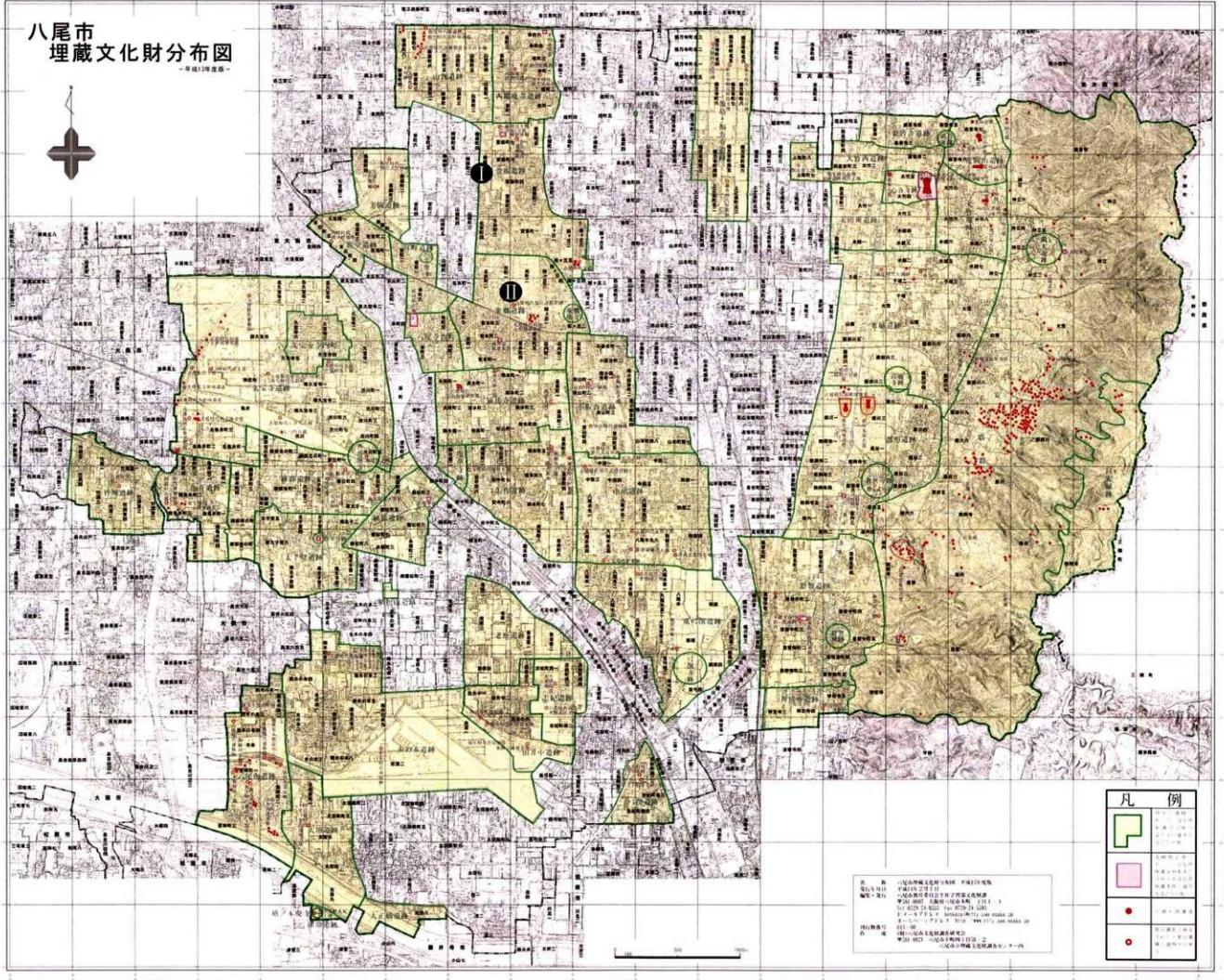
2006.3

財団法人 八尾市文化財調査研究会



八尾市
埋蔵文化財分布図

-平成17年版-



はしがき

八尾市は大阪府東部に位置し、河内平野のほぼ中央部にあたる。西に上町台地、東に生駒山系の景観をみる肥沃な土壌を有する地域であります。

本市は恩智遺跡や八尾南遺跡をはじめとし、古来より先人達が大地に刻んできた文化遺産が数多く残されている地域であります。しかしながら、近年の都市周辺開発の進展により、その貴重な文化遺産が人目に触れることなく日々どこかで消滅しているのも周知の事実であります。

そこで我々、財団法人八尾市文化財調査研究会は、開発に伴う発掘調査、調査研究を通じて八尾市に眠る文化遺産を明らかにし、後世に伝えていくことが課せられた責務と考えています。

本書は、平成17年度に実施しました萱振遺跡第25次調査、東郷遺跡第66次調査の2件の公共下水道事業に伴う調査成果を収録したものであります。

本書が地域史解明はもとより、埋蔵文化財の保護・普及の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査の開始当初から本報告書の刊行に至るまで、数々のご尽力を頂きました関係各位の皆様方に心より御礼申し上げるとともに、今後なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会
理事長 前田 義秋

I 萱振遺跡第25次調查(KF2005-25)

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市菅振町六丁目地内で実施した寝屋川流域下水道柏原八尾増補幹線(第2工区)下水管渠築造工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する菅振遺跡第25次調査(KF 2005-25)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が大阪府から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成17年11月7日～平成17年12月22日(実働3日)にかけて、高萩千秋を担当者として実施した。調査面積は約24m²を測る。
1. 本書作成に関わる執筆および編集は高萩が行った。

本　文　目　次

1.はじめに.....	1
2.調査概要.....	2
1)調査の方法と経過	2
2)層序	2
3)検出遺構と出土遺物	2
3.まとめ.....	2

挿　図　目　次

第1図 調査地周辺図 (S=1/5000)	1
第2図 平断面図.....	3

図　版　目　次

図版一 調査区	4
---------------	---

I 萱振遺跡第25次調査(KF2005-25)

1.はじめに

萱振遺跡は八尾市の北西部に位置し、現在の行政区画上では、緑ヶ丘1～4丁目、萱振町1～7丁目、楠根町1丁目、北本町3・4丁目に所在する。地形的には南東から北西方向に流れる旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置する。またそれらの河川の間に楠根川が南東から北西方向に流下している。当遺跡の周辺には、北に西都廃寺遺跡、北西に山賀遺跡、南に東郷遺跡が隣接し、北方の東大阪市域では、新家遺跡・若江遺跡・瓜堂遺跡が広がっている。

当遺跡では今まで、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会によって数多くの調査が実施され、弥時代前期から近世に至る時期の遺構・遺物が検出されている。その中でも特筆すべきものは、昭和57年度に萱振7丁目地内において、大阪府教育委員会によって実施された府立八尾北高校建設工事に伴う調査で、弥時代前期から中世までの活面が検出され、遺物も大量に出土しています。特に古墳時代前期においては、1辺約27mを測る方墳となる「萱振1号墳」が発見され、墳頂部からは鞍形埴輪・鎧付埴輪・朝顔形円筒埴輪等が出土した。この方墳の発見は、河内の低地部で発見された古墳のなかでも最大級であり、埴輪を含め平地における古墳の様相を究明する上で貴重な成果が得られている。



第1図 調査位置図及び周辺図 (S=1/5000)

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は、調査研究会が壹振遺跡内で行った第25次調査にあたる。寝屋川流域下水道柏原八尾増補幹線(第2工区)下水管渠築造工事で、規模は径約5mの平面円形の調査区、面積24m²を測る。

調査は八尾市教育委員会の指示に従い、現地表(T.P.+6.0m)下約4.5mを機械で掘削し、地層および遺物の検出に努めた。しかし、工事掘削ではアーバン工法という筒状の鉄板を油圧で押込み、筒内の土を機械で掘る工法である。

2) 層序

調査では工事掘削工法より調査区内には安全を考慮して入れない状況下であり、機械により掘削される土砂を確認するのみの調査であった。調査では現地表面から約4.5m前後の地層について確認を行った。地層は10層を確認した。第1層は盛土・客土で、第2層は旧耕土である。第3層は淡黄灰色シルトで、旧耕土の床上である。第4層は淡黄灰色細砂で、北西方向へ落込む河川堆積である。第5層は灰青色粘質シルト。第6層は暗灰青色粘土上の河川堆積である。第7層は淡灰色細砂。第8層は暗灰色粘土で植物遺体を含む。第9層は灰色粘土。第10層は淡灰色細砂II。第11層は第9層とほぼ同一層の灰色粘土IIで植物遺体を含む。第12層は淡灰青色細砂で植物遺体を含む。第13層は暗灰色粘土IIで植物遺体を含む。第10層は、淡灰色細砂IIIで植物遺体を含む。

3) 検出遺構と出土遺物

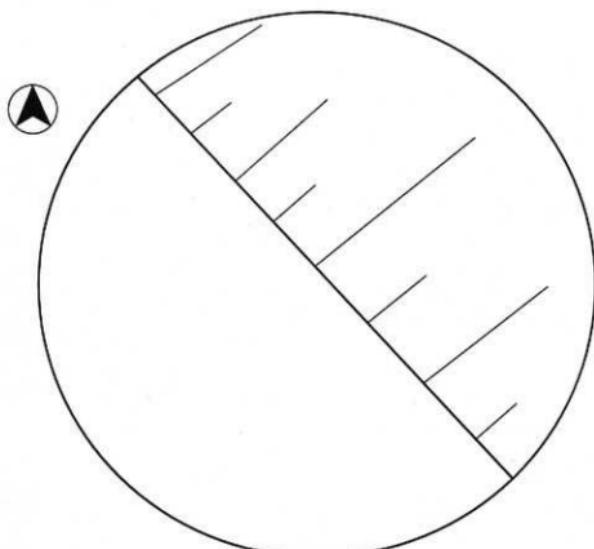
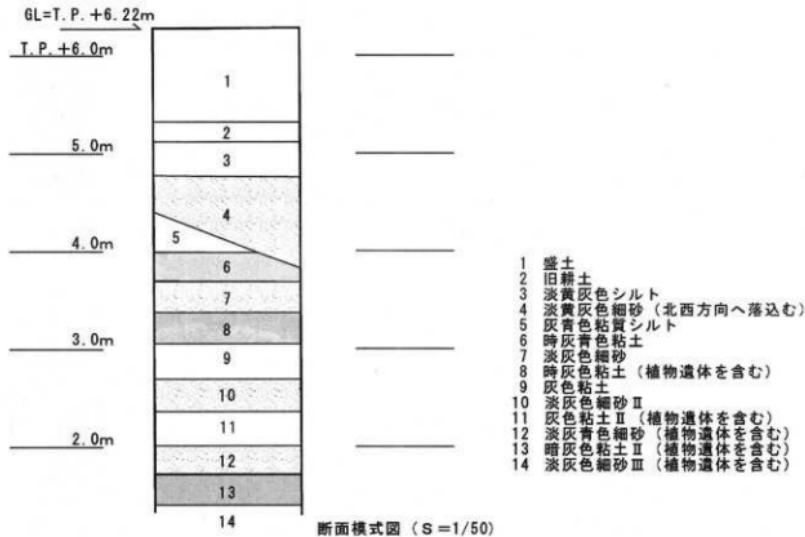
5層上面で河川と思われる砂の地層を確認した。西側へ砂の層が深くなっている。遺物の出土はなかった。

3. まとめ

調査地の北方では、弥 時代前期～中世に至る遺構・遺物が多数検出されている。今回の調査では掘削工法等により、断面観察や面的な調査を行うことが出来なかつたため、詳細な遺跡の有無については断定はできなかつた。

参考文献

- ・高萩千秋 1992 「IX 壱振遺跡第11次調査(KF91-11)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』 (財)八尾市文化財調査研究会報告34 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子 1996 「V 壱振遺跡(第17次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告52』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 1996 「IV 壱振遺跡(第18次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告53』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助 1996 「VI 壱振遺跡(第19次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告53』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助・高萩千秋 1996 「8. 壱振遺跡第19次調査(KF95-19)」『平成7年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 1998 「VI 壱振遺跡(第21次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子 2001 「Ⅸ壹振遺跡第22次調査」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』 財团法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助・岡田清一 2003 「壹振遺跡(第23次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告75』 財团法人八尾市文化財調査研究会



河川流路の平面略図 (S=1/50)

第2図 平断面図



機械掘削状況（西から）



調査区全景（西から）



T.P. +3.0m前後（西から）



T.P. +2.0m前後（西から）



T.P. +5.0m前後（西から）



T.P. +2.0m前後（西から）

I 東郷遺跡第66次調査(T G2005-66)

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市光町1丁目地内で実施した寝屋川流域下水道柏原八尾増補幹線(第2-1工区)下水管渠築造工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第66次調査(TG2005-66)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が大阪府東部流域下水道事務所から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成18年3月17日～平成18年3月20日(実働3日)にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積は約9m²を測る。
1. 本書作成に関わる執筆および編集は西村が行った。

本　文　目　次

1.はじめに.....	5
2.調査概要.....	6
1)調査の方法と経過	6
2)層序	6
3)検出遺構と出土遺物	7
3.まとめ.....	8

挿　図　目　次

第1図 調査地周辺図.....	5
第2図 平断面図.....	7

図　版　目　次

図版一 調査地周辺 第1面全景 第2面全景 第3面全景 第4面全景.....	8
--	---

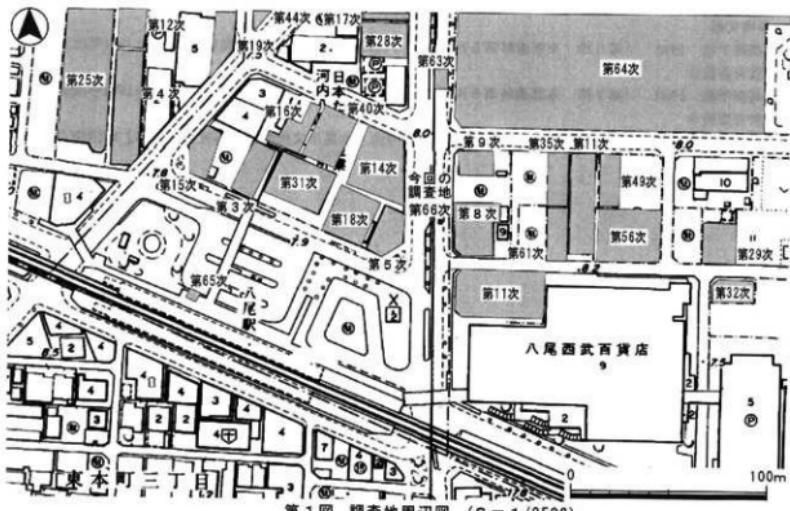
II 東郷遺跡第66次調査(TG2005-66)

1. はじめに

東郷遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置する遺跡で、現在の行政区画では本町1・7丁目、東本町1~5丁目、北本町2丁目、莊内町1~2丁目、桜ヶ丘1~4丁目、光町1~2丁目、旭ヶ丘1丁目の一部がその範囲と推定されている。地理的には、河内平野のほぼ中央部を流れる長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地し、同地形上には北に萱振遺跡、西に八尾内町、南東に小阪合遺跡、南に成法遺跡が存在している。

当遺跡は、昭和46年に八尾市東本町2丁目の水道工事中に墨書き土器が出土したことが発端になり、遺跡として認識されることとなった。その後、大阪府教育委員会（以下府教委）および八尾市教育委員会（以下市教委）、八尾市文化財調査研究会（以下研究会）によって多くの発掘調査が実施され、弥生時代～近世に至る複合遺跡であることが判明している。

今回の調査地が存在する光町1丁目は、当遺跡のほぼ中央部に位置し、これまでに多数の調査が行なわれている。近隣の調査成果をあげると、東側に隣接している市教委昭和56年度第8次調査で、古墳時代初頭～前期の竪穴住居や掘立柱建物・土坑等が検出されている（高萩1983）。また、西側の市教委昭和56年度第5次調査では、古墳時代前期の井戸・土坑等が検出されており（高萩1983）、居住域の存在が明らかになっている。



第1図 調査地周辺図 (S = 1/2500)

1) 調査の方法と経過

今回の調査は、研究会が東郷遺跡内で行った第66次調査にあたる。大阪府の下水道工事の到達立坑部分の調査で、規模は3×3m、面積9m²を測る。

調査は市教委の指示に従い、現地表(T.P.+7.46m)下約1.5mを機械で掘削し、以下約1.0mは人力で掘削し遺構および遺物の検出に努めた。

2) 層序

0層は盛土で、以前の建物基礎などのコンクリートや産業廃棄物含む。1層は10YR4/2褐色細粒シルト質粘土。上面は擾拌されており、中世頃の耕作土の可能性が高いと考えられる。2層は10YR4/1褐色灰色粘土。上面は土壤化している。3層は5B6/1青灰色粘土質細粒シルト。4層は10BG5/1青灰色粗粒砂。上面は粘土質で、土壤化している。古墳時代前期に相当する地層と思われる。5層は5B6/1青灰色粗粒シルトの河川堆積である。

3) 検出遺構と出土遺物

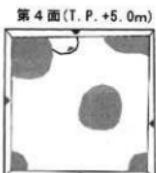
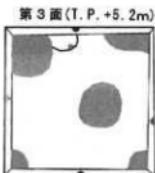
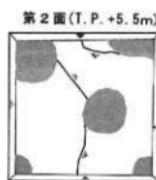
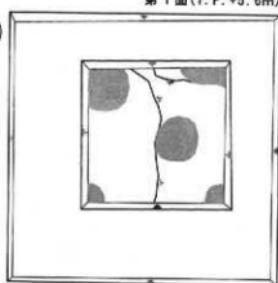
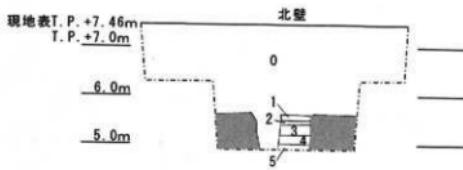
1層上面(第1面)、2層上面(第2面)、4層上面(第3面)、5層上面(第4面)で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

3.まとめ

調査地の近隣では、古墳時代初頭～近世に至るまでの遺構が多数検出されている。しかし、今回の調査では遺構の検出および遺物の出土はなかった。調査面積が僅かであったため断定はできないが、居住域の中の空閑地であった可能性が高いと考える。

参考文献

- ・高萩千秋 1983 「第5節 東郷遺跡第5次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』八尾市教育委員会
- ・高萩千秋 1983 「第7節 東郷遺跡第8次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』八尾市教育委員会
- ・岡田清一 2005 「Ⅲ 東郷遺跡第63次調査」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告84』財団法人八尾市文化財調査研究会



● = 下水工事の箇所(コンクリート)



平断面図 (S = 1/100)



調査地周辺（北から）



機械掘削状況 現地表面 T.P. +7.46m (北東から)



北壁 T.P. +7.46~4.9m (南から)



第4面 T.P. +5.0m (南から)



第4面 T.P. +5.0m (北から)



第4面 T.P. +5.0m (北から)



第4面 T.P. +5.0m (東から)



人力掘削風景 (南から)

報告書抄録

ふりがな 書名	さいだんほうじん やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく93
副書名	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告93
巻次	I 報告書第25次調査 II 東郷遺跡第66次調査
シリーズ名	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	93
編集者名	I 高萩千秋、II 西村公助
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
かやふらいせき 萱振遺跡 (第25次調査)	おほさかふやかわしやかわくらとうらうらうちわもない 大阪府八尾市萱振町六丁目地内	27212 65	34度38分 18秒	135度36分 20秒	20051107 ~ 20051222	24	公共 下水道
とうこういせき 東郷遺跡 (第66次調査)	おおさかふやかわしやかわくらとうらうらうちわもない 大阪府八尾市光町1丁目地内	27212 67	34度37分 37秒	135度36分 26秒	20060313 ~ 20060331	9	公共 下水道

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
萱振遺跡 (第25次調査)	集落	中世	河川	—	
東郷遺跡 (第66次調査)	集落	古墳時代前期以降	地層	—	

財団法人八尾市文化財調査研究会報告93

- I 蒼振遺跡第25次調査
II 東郷遺跡第66次調査

発 行 平成18年3月
編 集 財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581-0821
大阪府八尾市幸町4丁目58番地の2
TEL・FAX (072) 994-4700

